

人跡未踏といわれた劔岳の山頂を目指す明治期の測量隊を描いた映画「劔岳 点の記」(木村大作監督)の撮影が県内で進んでいる。測量技術者の団体、日本測量協会(東京)で月刊誌の編集に携わる浦郷武夫さんが、専門家の立場から映画へ寄せる期待をつづらせた。

### 映画「劔岳 点の記」に期待

月刊誌「測量」 浦郷 武夫

映画「劔岳 点の記」に富山県民と同様、測量に携わる人たちも大きな期待を寄せている。原作となった新田次郎の小説「劔岳 点の記」は山に関心のある人たちの間でよく知られ、

この映画は派手なアクションシーンはないし、女性は二人か三人しか出てこない。恋人は死なないし、ただひたすら男たちが山の中を歩いているという。「そんな映画が今の若い人たちに受けるのか」との声もある。

また、フランスの王立アカデミーでは、地球の大きさを測ることに科学者を動員して、北極圏や南米アンデス山中にまで測量隊を派遣して子午線の長さを求めたことは有名である。測量の仕事は、ヨーロッパでは学問としての高い位置づけと大切な仕事として認識されている歴史がある。

## 欧州の評価に注目

身的な使命感と「手抜き」など天からありようのない仕事への姿勢が表現されている。食品偽装や手抜き設計、建設資材の耐久テスト偽装などの問題が続出する日本の現場に、国民は憂慮している。そんな時代だからこそ、この映画の意義が際立ってくるのだと思う。

転じて、自国の文化と歴史を尊重するヨーロッパの国々のことを思う。ドイツはマイスター(熟練工)の国である。ものづくりに関しては歴史とこだわりがある。しかも、測量の大切な

今はこの映画が事故もなげ、無事に完成するよう切に祈っている。

日本測量協会の月刊誌「測量」は、昨年六月から毎月何らかの形で劔岳の話題を取り上げている。協会のホームページに「劔岳 点の記」コーナーがある。  
アドレスhttp://www.isurvey.jp/tsurugidake/index.htm

## 芸能とやま

映画「劔岳 点の記」は、東映北日本新聞社などで行っている製作委員会製作。浅野忠信、香川照之、宮崎あおい、松田龍平らが出演。来年初夏公開の予定。



うら、うら・たけお 1954年生まれ。大学で地理学を専攻し、出版社勤務を経て、現在月刊誌「測量」編集事務局。東京都。

DA1914097N6



Deutsche Bundesbank  
Ullrich  
Frankfurt am Main  
1 August 1991



ZEHN DEUTSCHE MARK